

4:十分できている 3:おおむねできている 2:あまりできていない 1:できていない、改善を要する  
未記入:直接担当していない職員等で判断が困難

【緊急検討項目】桃色:1+2⇒40%以上 【要検討項目】黄色:1+2⇒30%以上40%未満 【要注意項目】水色:1+2⇒20%以上30%未満

【努力評価項目】緑色:3+4⇒75%以上

評価項目	担当	目標	取組内容	4	3	2	1	未記入	成果及び課題・改善策	
教育課程	1 授業づくり	教務	各授業の年間目標に基づいた授業づくりを充実させる。	教科会を定期的に行う。また、年間指導計画の検討を行う。	5.6%	66.7%	14.8%	0.0%	13.0%	教科会を行い、学年ごとに年間指導計画の検討を行った。3学年を通して、学習内容を確認し、検討する。
	2 人権教育	教務(人権委)	教科を合わせた指導の中で人権教育の内容に取り組む。	各教科で学習内容を確認する。	1.9%	51.9%	29.6%	5.6%	11.1%	各教科の中で人権教育の内容に取り組んでいるが、ねらいとして明確に意識して指導することが必要である。教員の研修を実施し、人権意識を高める取組を増やす。委員会の目標を明確にして人権教育を推進する。
	3 交流及び共同学習	総務(交チャレ委)	ともに生き、ともに働く地域社会の実現に向けて活動する。	近隣の高等学校との交流及び共同学習、地域にてサテライトデイの活動、地域の施設での芸術鑑賞を実施する。	14.8%	59.3%	7.4%	3.7%	14.8%	交流及び共同学習では、高齢者スポーツの支援について共同学習を計画する。サテライトデイを活用しての地域での交流においては、生徒の作業に取り組む様子に感心と称賛をいただいた。公共ホールでの芸術鑑賞会では、社会参加のマナーも学習できた。
	4 カリキュラムマネジメント	教務(教育課程委)	各教科の学習内容のつながりを明確にし、系統的に取り組む。	年間指導計画の中で、各教科の学習内容のつながりを確認する。	5.6%	48.1%	33.3%	3.7%	9.3%	3年の学習内容は今年度初めての取組であり、各教科の学習内容のつながりを確認するまでに至らなかった。定期的に委員会を行い、学年や各教科のつながりを明確にし、系統的に取組む。
	5 西神戸ドリカムプラン(個別の指導計画)	支援研修	教師一人一人が「個別の指導計画」の機能を理解して、新様式の導入準備を行う。	「ガイドブック(本校作)」「特別支援教育ハンドブック(センター作)」を手掛かりに、機能や書き方を知る機会を設定する。	7.4%	53.7%	27.8%	0.0%	11.1%	「ガイドブック(本校作)」に加え、書き方見本を配布。R2年度に向けて書式に自立活動を新設。教務部による合わせた教科領域の指導の目標、教科領域の物の見方考え方の提示、評価についての情報提供が喫緊の課題である。
	6 ICT教育	情報(情報教育推進委)	適切なICT機器を導入し、効果的な授業を展開する。	生徒個人用のICT機器(iPad)購入を行い、LHR・総合の調べ学習等、有意義に活用する。	20.4%	55.6%	9.3%	1.9%	13.0%	各教室に個人用のiPadを設置し、LHR・総合の調べ学習等有意義に活用できた。また、販売学習ではポップを作成するアプリ「POPKIT」、コミュニケーションの授業では漢字検定対策のアプリなどを活用することで、効果的な授業が展開できた。今後も、使用のルールを徹底していきたい。
	7 キャリア教育	教務	コース・ワークの作業学習、教科の授業と実習等で学んだことを効果的に取り組めるよう工夫する。	担任と教科担当、進路指導と連携をとりながら進める。	9.3%	63.0%	14.8%	5.6%	7.4%	定期的に行うことができなかった。組織面でも工夫しながら、教科担当、進路指導との連携を取れるよう定期的に行う。
	8 コースの取組	SO部	1年時にコースの基礎を学び、23年時には授業で練習したことをサテライトで発揮し、活動を通して明らかになった課題の解決に取り組む、力の向上を図る。	1学年で各コースの基礎を習得し、23学年でサテライトを想定した取り組みを行い、課題解決の過程を積み上げ、実践的な力を養う。	20.4%	59.3%	7.4%	1.9%	11.1%	1年時のワーカー23年時のサテライトへと活動をつなぎ、外部施設での活動が充実して行えた。生徒の活動スキルも向上し、地域の施設での活動中に好意的な声をかけられることが増えた。1年生での各コースの基礎内容の習得が次学年での活動に結びついていけると考えられる。今後、1年から3年のコースの縦のつながりを充実させ、必要な学びの情報を交換し合う等を行いながら、各学年での活動を一層意味あるものとしていくことが考えられる。生徒が自発的に考え、工夫し、そして意欲的に働けるようになるアプローチを工夫していきたい。
進路指導	9 実習・進路先開拓	進路	生徒のニーズや実態等の特性に合わせた実習先の新規開拓を行う。	進路個別相談会にて生徒や保護者からのニーズの聞き取り及び担任や学年団からの情報交換を適宜行う。	16.7%	53.7%	9.3%	1.9%	18.5%	今年度新たに120社以上の企業の新規開拓を行った。生徒や保護者のニーズを聞き取りながら、また担任の情報から生徒の特性に合うような企業の開拓を行った。カリキュラム上、多くの生徒が小売店への実習が多くなるため、引き続き新たな実習先の開拓が必要である。
	10 ガイダンス	進路	将来の生活及び卒業後の進路に対する意識や理解を高める。	職業体験実習や進路個別相談会、進路説明会を実施したり、ビジネスマナーの授業等を実施したりする。	18.5%	59.3%	11.1%	1.9%	9.3%	進路個別相談会や進路説明会を通じて生徒や保護者へ企業や障害者雇用に関する情報提供、卒業後の見通しを持ってもらうための情報提供を行った。3年生に関しては、本校として初めての取組だったために本人や保護者のニーズに応じた情報提供やガイダンスができたかどうか検討する必要がある。
生徒指導	11 いじめ対策	生徒指導	日常的な基本的生活習慣の確立・獲得に向けて生徒が主体的に取り組む態度を育てる。いじめや問題行動について、教員・家庭と情報共有を図り、未然防止・早期発見・早期対応及び再発防止に取り組む。	生徒心得にを基に生徒が主体的に生活づくりを行っていきけるよう、様々な場面で働きかける。年3回の「生活アンケート」を実施し早期発見・早期対応に取り組む。いじめ事案があった時にはいじめ対応チーム会議を招集し、解決に向けて組織的に取り組む。いじめ防止プログラムや研修を通して、未然防止に努める。	11.1%	59.3%	20.4%	0.0%	9.3%	今年度は2回の生活アンケートを行った。3月は、生活アンケートの実施ができなかった。今年度2件の事案に対していじめ対応チーム会議を招集し組織的にいじめ対応を行った。いじめ防止プログラムへの取り組みなど未然防止の取り組みも行った。今年度の、いじめ問題もは計15件あった。未然防止、早期発見、早期対応の取り組みをより推進していくことが課題である。
	12 特別活動(ホームルーム活動、生徒会活動)	生徒指導	望ましい集団活動を通して、集団の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てる。	生徒会役員による「朝の挨拶運動」、「朝の学習」開始時間の気づきのアナウンスの取り組み。「身だしなみチェックDAY」を通して、身だしなみについて生徒自身の気づきを促す。「スポーツ祭」「西神戸祭」の実行委員会及び生徒会役員の主体的な運営の機会の設定	11.1%	75.9%	3.7%	0.0%	9.3%	スポーツ祭、西神戸祭実行委員会では、生徒の実行委員会を立ち上げ、生徒が主体となって行事を展開することができた。また、「朝の挨拶運動」「身だしなみチェックDAY」を行い、挨拶や身だしなみについて生徒自身の気づきを促した。生徒会は、全国大会の壮行会や、対面式、夏のレクレーション等で司会や、運営に積極的に関わることができた。生徒会と、クラスの係との連携を作っていくことが課題である。

学校保健	13	保健管理	保健	生徒が主体的に健康な生活を送れるよう、組織的に環境調整及び支援に取り組む	定期健康診断と事後措置、教育相談と保健支援の充実、アレルギー対策委員会等安心安全な学校環境構成	22.2%	63.0%	3.7%	0.0%	11.1%	今年度新たに発足したアレルギー対策委員会で、学校生活全般への具体的な支援策が協議され、有意義な取り組みができた。今後新たな課題となる感染症対策にも積極的かつ機動的に取り組みたい。
	14	保健教育	保健	自他の生命を尊重し、健康で自立した生活を送るための能力、態度及び習慣を育てる	各学年で実施する保健教育(性教育、心の教育、病気について知る、心肺蘇生法、病院受診の方法等)の充実	18.5%	63.0%	5.6%	0.0%	13.0%	高等部3年間を見通して、生徒の心身の健康課題に沿った保健教育に取り組んだ。今後も青年前期の発達課題に基づいた保健教育に取り組みたい。
学校安全	15	安全管理	総務	危機管理、防災計画、施設設備の安全管理に努める	平常時の不審者侵入抑止、施設設備の安全点検、防災計画整備、危機管理体制整備、訓練と研修を実施する。	13.0%	66.7%	16.7%	0.0%	3.7%	不審者対応訓練の活用を通して、対応マニュアルを作り、それを活用して様々な行事の不審者対応を検討することができ、安全に行事を行えた。行事等、実施要項検討の際は、常に危機管理の観点から、要項を吟味する習慣をつけたい。
	16	安全教育	総務	安全な環境づくり、危険回避、減災等への意識と対応能力を高める	各種避難訓練、作業学習での安全教育、登下校指導を実施する。	11.1%	70.4%	11.1%	0.0%	7.4%	職業自立分野の学習では、作業学習の前で安全への意識を高める取り組みがなされた。避難訓練においては、煙体験キッドの活用により、模擬場面がよりリアルに体験学習できた。様々な教材教具を用いて、体験を通じた学習を効果的に積み重ねたい。
支援	17	西神戸ドリカムプラン(個別の教育支援計画)	支援研修	教師一人一人「個別の教育支援計画」の機能を理解して、新様式の導入の準備を行う。	「ガイドブック(本校作)」「特別支援教育ハンドブック(センター作)」を手掛かりに、機能を知る機会を設定する。	9.3%	55.6%	24.1%	0.0%	11.1%	「ガイドブック(本校作)」に加え、書き方見本を配布。R2年度も引き続き「個別の教育支援計画」の機能の理解促進のため、事例の提示を行う。また、機能定着まで「ドリカム」名称を控える。
	18	校内支援	支援研修	(1年)適切なアセスメントに基づく適切な支援。(要支援案件)記録をとり支援を検討する。	(1年)アセスメントに基づく適切な支援。(要支援案件)記録用紙を活用し、支援の効果を検証する。	3.7%	50.0%	29.6%	1.9%	14.8%	希望者39名に対して7月までにWISCIVを実施。分析結果及び有効な支援についてを担任、学年団に資料として提供した。要支援案件では、記録用紙や支援ツールの提供、個別授業の指導案及び評価を配布。4期生も今年度同様、検査、結果及び有効な支援資料配布。要支援案件時に支援ツール指導案提供。R2年度より全学年『個別の教育支援計画』を新様式、『個別の指導計画(自立活動)』新規実施。
	19	センター的機能	コーディネーター	地域で支援を必要としている当事者・支援者に支援を届ける。特別支援教育の啓発活動。	高等学校等のニーズに応じて職員研修講師、校内支援体制作り助言および相談支援をする。	5.6%	51.9%	22.2%	1.9%	18.5%	神戸市内の県立高等学校4校の教員研修講師、学期毎のケース検討会の助言及び支援プランの提案、作成補助、関係機関連携情報提供を行った。市内中学支援学級担当者会のブロック会に出席。学びの連続性として今後とも情報交換の機会を活用が重要である。
資質向上	20	校内研修	支援研修	研修の年間計画を作成し、計画的に研修を開催する。また書籍等情報提供する。	「支援研修部だより」を活用して、早期から研修日や研修内容を伝え出席しやすくする。	13.0%	63.0%	13.0%	0.0%	11.1%	年間計画、早期からの研修日・内容の伝達で、ほぼ全員が受講し共通言語を持つ機会となった。「支援研修部だより」を通じて、出版物、教材、先進校視察情報等を提供した。次年度も特別支援教育の専門性の向上、共通言語を増やす機会として活用していきたい。
	21	授業研究	研究推進委	次年度からの本格実施に向けて研究デザインを作成する。	「インクルーシブ教育」「学習指導要領改訂」「目指す生徒像」等について共通理解し、研究デザインを作成する。	3.7%	44.4%	29.6%	3.7%	18.5%	10月に「インクルーシブ教育」、12月「学習指導要領改訂」「目指す生徒像」についての職員研修を実施。12月、次年度からの研究テーマについて職員アンケートを実施。2月研究テーマ決定、3月研究デザイン発表。R2年度研究テーマ「授業の西神戸スタンダードづくり～学習規律の確立・授業サイクルの確立～」4月から「授業規律の質的向上に関わるチェックリスト」を活用した授業改善を実施。
教育環境整備	22	図書館活用	情報図書	ゆとりのある快適なスペースを確保し、生徒が活用しやすい環境を整える。	月・水・木の開館。図書委員(3名)ずつ配置し、貸し出し、ラベル作成、本の整備等の作業に取り組む。	18.5%	63.0%	3.7%	0.0%	14.8%	図書委員を中心に、本の貸出業務やラベル作成の作業を行った。「貸出期限のお知らせ」プリントで、返却忘れの生徒への連絡がスムーズにできた。蔵書が増えてきたので、今後も整理整頓、分類整理に努めたい。
開かれた学校づくり	23	ホームページ	情報図書	ホームページを充実させ、行事や授業の様子をブログを通して広く情報発信を行う。	ホームページ・ブログを通して、オープンスクール等の情報提供、授業・行事など教育活動の情報発信を行う。	25.9%	61.1%	3.7%	0.0%	9.3%	ホームページのオープンスクールのページを独立させるなど、分かりやすいサイトを目指して改善した。また、ブログを通して行事や授業の様子など、生徒達の活動の様子を紹介することができた。今後も情報発信に努めたい。
	24	学校説明会、オープンスクール等	総務	学校教育目標等、学校概要を本校入学希望者や地域住民が知る機会とする。	学校説明会は年間合計4回、オープンスクールは年間合計7回実施する。	27.8%	53.7%	13.0%	1.9%	3.7%	7回の実施により、約480人の参加があり、本校の教育の様子を知っていただく機会となった。しかし年度途中から、見学希望が殺到し、希望に十分に答えきれなくなった。特に本校への進学を視野に入れている中学生とその関係者には、来年度はよりよい時期に見学してもらえよう丁寧に計画を行う。
	25	PTA活動	総務	PTAの体制づくり、活動の内容の整備を行う。	年間活動計画、活動の係分担、必要な活動とやりたい活動を整理して取り組む。	13.0%	68.5%	5.6%	0.0%	13.0%	PTAの本部、研修部ともに、前年度までの活動の上に定着することができた。次年度はより円滑な活動のための細部の取り決め(福祉厚生費の活用、きょうだいで在籍家庭の会費の減免等)に着手が必要である。
	26	学校評議員会	教頭	評議員から聞いた意見を、教職員にフィードバックし、本校の教育実践に活かす。	年間3回実施する。 ①授業参観②SC授業報告③3年間総括、学校評価	7.4%	66.7%	7.4%	0.0%	18.5%	3月総括が臨時休業のため実施できなかった。次年度も同様に実施する予定。
組織運営	27	勤務時間の適正化	教頭	教職員が心身ともに健康で、ワークライフバランスをのたれた充実した生活を送れることを目指す。	定時退勤日の完全実施を行う。(毎週水曜日、18時完全退勤)	7.4%	48.1%	35.2%	3.7%	5.6%	継続的取組みに追加して、各教員の仕事の都合に合わせて設定する等の検討をする。先進事例集GPH50に基づいて取組の促進を図る。
	28	効率的な会議の運営	教頭	重点課題を解決するために効率的な会議運営を目指す。	校務運営委員会と職員会議において、協議時間を設定し、時間を意識して運営する。	9.3%	48.1%	27.8%	7.4%	7.4%	これまでの取組に加えて、計画的な起案、議題の事前調整を実施する。先進事例集GPH50に基づいて取組の促進を図る。